

事業実績調書

(1) プロジェクト名 瀬戸市の社会課題の分析と新たな解決策

(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)

本プロジェクトでは、瀬戸市が抱える課題のうち、(1)公共交通の利用促進、(2)ジブリパーク効果の地域への波及、(3)ニュータウンの居住者増加、(4)コロナ禍における地域活性化、の4つのテーマを取り上げ、各テーマについて以下に示すその課題解決に向けた10の調査研究及び試行実験を行った。

テーマ (課題)	課題解決のための調査研究・試行実験
(1) 公共交通の利用促進	①コミュニティバスの改善策の検討
	②オンデマンド型交通の導入可能性
	③ロメンステッカーによる案内表示の導入可能性
(2) ジブリパーク効果の地域への波及	④せとものによるジブリ関連商品の提案
	⑤市内中心部への集客案の検討
(3) ニュータウンの居住者増加	⑥菱野団地のスマートタウン化の調査及び提案
(4) コロナ禍における地域活性化	⑦観光資料のデジタル化試行事業
	⑧動画発信による瀬戸市の PR 事業
複数のテーマの課題解決に資するもの	⑨音声ガイドによる商店街活性化事業
	⑩陶芸作品コンテスト

10の調査研究と試行事業を通して、瀬戸市の社会課題について解決策を提案することができた。まず、公共交通の利用促進については、コミュニティバスの改善、オンデマンド型交通の導入、ロメンステッカーによる案内表示の3つの提案を行うと共に、モビリティマネジメントの必要性など様々な提案を行った。ジブリパークの効果を地域に波及するための政策については、観光客が少なく、地場産業である陶磁器産業が低迷しているという課題に対して、ジブリパークの来園者をターゲットとした瀬戸市中心市街地への集客案の提案を行った。また、アンケート調査により瀬戸市の陶磁器産業がジブリー関連商品を製造販売することを提案した。菱野団地の人口減少の問題に対しては、若い世代の居住を促進するためにどのような策が必要かを探るため、アンケート調査を行った。その結果を元にどのようなスマート化が若者の移住を促進するのかを提言した。新型コロナウイルスにより観光産業が大きな影響を受けているという課題に対しては、観光資料のデジタル化、動画による瀬戸市PR事業によりコロナ禍においても対外的に瀬戸市の魅力をPRすることに成功した。更に、本プロジェクトで挙げた4つのテーマについて複数のテーマにまたがるものとして、小学生陶芸作品コンテストを実施した。全国から多くの小学生が参加し、瀬戸物の魅力PRとモノづくりの楽しさを発信することに成功した。また、市内中心部の商店街における対外的な魅力発信不足という課題に対して音声ガイドの作成を通して魅力発信を図った。日本国内はもちろん、海外からの再生もあり様々な層に瀬戸市の魅力を発信することができた。

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)

今年度は、教員石川良文の指導の下、石川ゼミナールの3年生(18人)が6つのチームを作り、各チームの事業を行った。新型コロナウイルス感染症の拡大により、主にzoom等のオンラインツールを利用しミーティングを実施し、感染対策を講じた上で必要に応じて瀬戸市でフィールドワークを実施した。

試行事業では、観光資料のデジタル化、動画による瀬戸市のPR事業、音声ガイドによる商店街活性化、小学生陶芸作品コンテストを実施し、それぞれ、Instagram、Twitter、TikTokなどのSNSを通して宣伝、周知を行った。また、新聞、ラジオ出演などを通じてプロジェクトと瀬戸市のPRも行った。作成した動画の視聴回数は、長編動画3,865回、短編動画12,708回、合計16,573回であった。また、デジタルブックの訪問者数は318人だった。音声ガイドは総再生数1422回、再生人数は156人であり、瀬戸市近隣のみならずイタリアやカナダからの視聴もあった。小学生陶芸作品コンテストでは、13の都道府県からエントリーがあり、合計91人のエントリーがあった。

調査研究事業としては、公共交通の利用促進、せとものによるジブリ関連商品のニーズ、菱野団地のスマートタウン化に関するwebアンケート調査を行い、ジブリ関連商品のアンケートは335人、ニュータウンのスマート化のアンケートは832人から回答を得た。アンケートの結果を分析し、瀬戸市の課題を解決するための提案を作成した。

政策提案としては、コミュニティバスの改善、オンデマンド型交通の導入、ロメンステッカーによる案内表示の導入、市内中心部への集客策を検討した。



愛知県瀬戸市の商店街にフィールドワーク「せとまち音声ガイド」。

このガイドは、愛知県にある愛山大学石川ゼミナールの水原雄志さん、豊永愛さん、渡辺亜樹子さんの3人の女子大学生によって、今年から取材、音声の収録まで行われたプロジェクトです。

今回、収録を終えた3人にせとまち音声ガイドの注目ポイントを紹介しました。



(4) プロジェクトの今後の課題と展望

今年度は、様々な分野から瀬戸市の課題を分析し、各事業を実施した。今後の課題と展望としては、いかに今年度得られた成果を元に後輩に引き継ぐかということが挙げられ、次年度も瀬戸市の課題分析、解決に向けて活動を行いたい。来年度も継続すべき事業は引き継ぎ、連携してより良い事業が実施できる環境を整えていく。